

第1回熊本市動植物園マスタープラン推進会議議事録【要旨】

日時:令和5年(2023年)4月20日(木) 9:30~11:00

場所:熊本市動植物園いきもの学習センターレクチャールーム

議 事

- ・熊本市動植物園マスタープランについて
- コレクションプランについて

《委員(出席者)》6名(1名欠席)※役職順、五十音順

- ・佐藤会長(神戸どうぶつ王国)・飯村副会長(熊本県立大学)
- ・伊藤委員(東海大学) ・太田委員(市民公募)※欠席
- ・清家委員(公認会計士) ・副島委員(熊本大学)
- ・村上委員(株式会社ヒトコト社)

《事務局》

- ・藤田部長(観光交流部)・外山園長(動植物園)
- ・本田副園長(動植物園)・松本副園長(動植物園)

議事録(要旨)

議 事

- ・令和3年度、4年度報告について
- ・コレクションプラン及び学習プログラム集について

<清家委員>

目指す来園者数が74万人ということで、令和4年度には68万人ほど来園されているとのことだが、予算作成した時の収入に関して、入園者数は何人で計画されていたのか。

<事務局>

基本的に歳入予算を組む場合は、現状の来園者数をベースにして、コロナ下の影響を加味した歳入にしている。

<伊藤委員>

本園での研究に関して、最終的に実験・研究をしたことに満足して終わった感じがしているので、今後、その研究データを実際の飼育や施設の改築などに落とし込むようなシステムを作れないか。要望になってしまうが、調査研究している立場と動植物園の担当者が定期的に報告しあえる組織を作してほしい。

<事務局>

今年度からそのようなことを推進していくために専任として、教育担当職員を配置しているので、組織化を具体的に進めていく。

<村上委員>

SNSに関して、お客さんが見る時間帯などを研究されて、その時間に投稿してみるのはいかがでしょうか。また、職員の方々だけでなく、一般の方々の広報・発信ボランティアみたいなものがあると、「自分は発信役だ」と思って、頑張って投稿するのではないかと思う。

<事務局>

SNSの投稿に関して調べたところ、朝の8時、昼の12時、夕方6時～8時あたりが見られる方が多いという結果が出ている。色々なアプリで時間を指定して投稿ができるものもあるので、こういう時間に集中してやってみたいと思う。また、ボランティアのSNS発信については、お客さん目線で発信ができるというところは非常に参考になるため、そこも含めて、検討したい。

<飯村副会長>

ボランティアに入られた方に対して、サーティフィケート(証明書)みたいなものを動植物園の方から出してはどうか。SNSで発信できる認定証みたいなものもいいと思う。

<事務局>

今後、ボランティアに参加していただいた方に発行できるような仕組みづくりを検討していく。

<佐藤会長>

今年度は動物福祉の評価が始まる年で、来年度は熊本市も含めたJAZA会員が対象になるため、そこに対しての戦略をしっかり進めていただきたい。あと、動植物の一体化というのは具体的にどういうことを指しているのかをお聞きしたい。

<事務局>

今年度は動物福祉に関しての担当者を充て、スケジュールを立て、福祉の基準をクリアできるよう体制をとっている。チェックリストにて、すべての獣舎で課題等を洗い出し、進めていきたいと考えている。動植物園の一体化については、生息環境展示の導入に加え、飼育担当者による獣舎への植栽など、動物が本来生息する環境の再現について、できるところから進めたい。

<伊藤委員>

獣舎を新しくしようという時に、生息環境展示でアニマルウェルフェアが下がったりすることも多々ある。まずそもそもアニマルウェルフェアってなんだろうっていうことを、動植物園以外の市役所の方や委員の皆様も含めて、一度確認する機会を設けたいが、そういう会を8月までにやっていただけないか。

<事務局>

確かにそういった知識がベースにないといけないことは感じているので、実施に向け検討したい。

<副島委員>

コレクションプランで種を増やす場合、場所の問題や専門性が高くなると思うが、それに適した専門技術を持った環境、体制は大丈夫なのか。

<事務局>

専門的で高度な業務を実施するために、専門性の高い人材、動物専門職という新たな専門職の採用を令和6年度から行う予定で、効率的でより効果的な業務体制を整えていく。

<伊藤委員>

最終的に目指している動物の数や種類数に対して、面積や福祉基準を満たすだけの施設になるのか。将来的な担当者数がどうなるのか。最終的なシミュレーションというのを、どこまでやっているのか心配である。

<事務局>

動物福祉を確保しながら、種の保存に関して十分に寄与することが今後重要になってくるため、そこに軸を置いて、種数を維持するのではなく、意義のある種をしっかりと維持して、推進していきたい。今後の会議の中で、さらにご意見をいただきたい。

<副島委員>

動植物園という割には植物園の存在感が希薄と感じる。江津湖が動植物を含め、生態系として非常に価値があるという視点を持ってほしい。日本庭園の小川が比較的、生態系を感じられる部分だと思う。これはかなり先のプランになってくると思うけれども、生態系を感じられる展示をもう少し取り入れてほしい。

<佐藤会長>

トゲネズミは血統システムでいい個体がいるので、もし飼育されるなら知見のある宮崎大学も近いため、連携してやられればいいかなと思う。

<伊藤委員>

学習プログラム集について、小学校・中学校だけではなく、例えば一般向けに開催して、参加費を徴収することはできないのか。海外の動植物園は、このようなプログラムで参加費を頂いて、餌代に充てたりしている。市の施設なので難しいかもしれないが、工夫をして収益の一部になればと思う。

<事務局>

まずは小学校・中学校からという考えであるが、非常に有効な手立てになると思う。早急にそういった仕組みづくりが構築できないか、検討していく。

<伊藤委員>

学習プログラム集がうまくいくかが、この動植物園の将来を担っていると思うが、学芸員や教育の専門家を雇用していく方向性で進めていただきたい。

<事務局>

今後、学芸員等の特殊な知識、高度な専門性をもった職員の配置について、検討していきたい。

<村上委員>

収益化に関して、SDGsなどで企業が応援しているというのは、これから大切なことになってくると思うが、企業のメリットがあれば、もっとお金を払いたくなると思う。せっかく映えるものが動植物園にはあるので、企業内のホームページやSNSにあげるイメージアップVTRなどのPR素材として、動物の映像が使うことができれば、使いたい事業者もいるのではないかなと思うがどうか。

<事務局>

今、100周年記念サポーターでは寄附をお金だけでなく、使役や物納といった様々な形で受け入れているところである。映像を使用したいということであれば、検討できるのではないかなと思う。

<清家委員>

寄附した事業者さんに、「当社は動植物園100周年記念を応援しています。」という、マークみたいな表示ができないか。各企業のホームページにもそれを掲載できるようにすると、それを見た方々がサポーター制度の存在を知ったりして、盛り上がってくるかなという気がする。例えばサポーターバッジなどはどうか。

<事務局>

非常に参考になるご意見であり、寄附があった際は検討していきたい。

<伊藤委員>

せっかく動物たちを見て、自然を体感しに来ているのに、おしゃれじゃない。おしゃれな空間にして、没入感を創出することは、教育効果において非常に大事なことである。プロの方を入れてコーディネートするのはお金がかかると思うが、全体的に俯瞰して没入できるような空間を創出してほしい。来園者の中にも、おしゃれな場所ということでカップルが来園するなど、そういう風になったらいいと思う。

<事務局>

自然を体感でき、そこに集中できるような空間にならないといけないと思うので、検討していきたい。

総括

<会長>

マスタープランの事業は着実に進められており、コレクションプランの考え方や学習プログラムもよくまとまっている。特に感心したのは学習プログラム。恐らくこのまま、他の園でも使える。お金の話が出たが、神戸どうぶつ王国でも教育プログラムを行っており、お金をいただいている。

その他色々ご意見いただいているので、参考にさせていただき、さらにブラッシュアップしてほしい。